

# 認知症の食事拒否の対応

## 認知症の食事拒否とは？

認知症患者では健忘や失語などの認知機能障害以外に、不安、幻覚および妄想など認知症の行動・心理症状(BPSD)を認めることがあります。この BPSD などの影響で過食や拒食といった食事に関するトラブルを認めることが少なくありません。特に食事拒否は長期化すると低栄養の要因と成り得るため症状に応じた柔軟な対応が必要です。



## 食事拒否の対応は？

### • 箸やスプーンなどの食具

食事を食べる際に使用する箸やスプーンが食具として認識できないこともあります。日頃から使用している使い慣れた食具を使うようにしてみましょう。また、食具を必要としないオニギリ、パンなどといった手掴みで摂取可能な料理だと食べる場合があります。

### • 義歯の調整や口腔ケア

歯が痛い、義歯が合わないなどといった口腔内の異常を訴えることが出来ないため、食事が摂取できない、もしくは思うように食べることが出来ないなどという場合が少なくありません。必要に応じて専門機関に相談してみましょう。

### • 味にメリハリがある食品や食べ慣れている食事内容

漬物、梅干し、佃煮などといった味の濃い食品を食事に加えることで食べ始めることがあります。また、甘味の強いお菓子なども比較的好んで摂取されます。その他、以前に好んで摂取されていたメニューなどがあれば、それを食事に加えることで食事拒否が改善する場合があります。

### • 食事摂取の環境

食事の際にテレビなどが付いていると集中できず食事が進まないこともありますので、その様な際はテレビを消すなど環境を整えてあげましょう。また、近くに介助者がいると気になり食事が進まないこともあります。その際には少し距離を置いて見守ることで食べ始める場合があります。

日常から「見る」「話す」「触れる」などを意識した  
食事の援助を心がけましょう。



(公社) 日本栄養士会 医療事業推進委員会

2019 年